

仁礼っ子だより



校長講話 仁礼から須坂へ

今日は峰の原高原で見つけたものについてお話しします。この花にとまっているちょっと珍しい模様のとてもきれいな蝶の名前は「アサギマダラ」といいます。はねは浅葱色といって、薄い青緑色をしています。まるで黒い縁取りのあるステンドグラスのようにきれいですね。はねを広げると10cmくらいの大きさです。寿命は4～5ヶ月くらい、他の蝶が2～4週間くらいであることに比べて長く生きる蝶です。この蝶は「旅をする蝶」と言われています。アサギマダラは、本州で生まれて秋になると四国、九州などを經由して、沖縄・台湾などに渡り、また春になると卵を産むために北上してきます。その移動距離は1000kmから2000kmとも言われています。これまで調査された移動距離で一番長いのは2500kmとも言われています。北海道の先から、九州の先まで直線距離で1900km位なので、それ以上の距離を移動していることになります。どうやってアサギマダラがそんなに遠くまで旅をすることが分かったのでしょうか。「マーキング調査」という調査をしたそうです。アサギマダラを見つけたときにははねに油性ペンで調査地名、調査日、調査者名やニックネームなどの情報を書いて放します。その蝶が別の場所まで飛んでいって見つかったとき、見つけた人がはねに書いてある情報をマーキングした地域の調査団体に知らせることで、どこまで移動していったかが分かるのです。一人ではなく、この調査に参加している多くの人がこのアサギマダラの旅の謎を調べています。その調査でこの蝶が「旅する蝶」だということが分かったのです。

私がこもれび広場で見つけたアサギマダラは、なぜ、この峰の原高原にきてくれたのでしょうか。一つは、峰の原高原の気候がアサギマダラに合っているからです。アサギマダラは20度くらいの気温を好むそうです。峰の原高原の夏の涼しさはアサギマダラにあっているのだと思われます。もう一つは、アサギマダラが好きな蜜を持っているフジバカマという花がたくさんあるからです。でも、峰の原高原で見かけたアサギマダラはどれほど遠くから飛んできたのか、このときは分かりませんでした。皆さんがもしも、アサギマダラを見かけることがあったら、マーキングがあるかどうか注意深く見てみてください。どこから飛んできたのか分かるかもしれません。旅するアサギマダラについてはまだまだ分からないことがたくさんあります。「旅の出发点はどこなのか」「どんなコースを通るのか」「どうやって長い距離を飛んでいくのか」そしてそもそも「アサギマダラがなぜ海を越えるような危険な旅をするのか」などはまだ分かっていません。その分からないことを知りたいと思って、研究を続けている人たちがいます。今は調べたいことがあれば、AIに聞くことも多いかもしれませんが、この世界のことで分かっていることはまだほんの少しなのです。一つ一つ長い時間をかけて、たくさんの人が協力し合いながら、この世界の分からないことを追究していつているのです。

アサギマダラのことを調べるために須坂市図書館に行ってみたら、「蝶が来る庭ーバタフライガーデンのすすめ」という本を見つけました。海野和男さんという写真家の方が、長野県小諸市に自分の庭をつくり、蝶を呼ぶために200種の花を植えると、130種の蝶を呼ぶことができたそうです。この本には春から秋までの季節の中で、どんな花にどんな蝶が来たのかが写真で記録されています。海野さんの庭にはアサギマダラもやってきたそうです。それぞれの花にやってくる蝶にはどんな違いがあるのか、それも調べてみたいなと思いました。ちょうど今、須坂新聞にはこんな記事が載っています。昨年度、わくわく総合の自然・環境グループでボランティアとして、ビオトープの植物や蝶などについて教えてくださったM先生が書いている連載記事です。須坂市で観察できる蝶について、紹介してくださっています。仁礼小のビオトープにもいろんな花が咲けば、いろんな種類の蝶が来てくれるかも、もしかしたらアサギマダラも長い旅の途中で立ち寄ってくれるかもしれませんね。皆さんがなにげなく目にしている生きものや植物にも、たくさんの素晴らしい秘密が隠されています。その秘密について調べてみるのはとても面白いのではないのでしょうか。

